

平成 20 年度 第 1 回史跡小田原城跡 八幡山古郭・総構保存管理計画策定委員会 議事録

日 時：平成 20 年 8 月 25 日（月） 13：30～15：45

場 所：小田原市役所 601 会議室

出席者：学識経験者 小和田委員、小笠原委員、勝山委員、小林委員  
市民代表 市川委員、瀬戸委員、福田委員、石川委員、立木委員  
関係機関 本多委員、川久保委員、柳川委員、守屋委員  
オブザーバー 井澤主査（神奈川県生涯学習文化財課）

1. 委嘱式

( 1 ) 委嘱状の交付

教育長より委員へ委嘱状(委嘱期間：平成 20 年 8 月 25 日～平成 22 年 3 月 31 日)が交付された。

( 2 ) 市長あいさつ

現在小田原市では、教育と文化を重点施策のひとつとして、歴史資産を活かしたまちづくりを進めていきたいと考えている。その中でも小田原城の重要な位置をなしている八幡山古郭について、本委員会で助言いただきながら保存管理計画を策定していきたい。(市長退席)

( 3 ) 委員自己紹介

小笠原委員：市の文化財保護委員会、史跡小田原城城跡調査・整備委員会の委員をさせていただいている。また約 30 年ほど前から城郭研究会で小田原城の遺跡調査を行い、その成果を市に提供してきた。今回、総構の検討を行うことになり夢のようである。小田原城がなければ現在の小田原市は存在しないと言っても過言ではないくらい重要なものである。このような歴史的遺産を市民にとって価値あるものとしていけるようにしたい。

勝山委員：小田原市の文化財保護委員をしている。専門は植物学である。小田原市の歴史的地域は市民にとって貴重な緑地となっているところもあり、そのような方面で役に立ちたいと考えている。

小和田委員：史跡小田原城跡調査・整備委員会の委員長をさせていただいている。全国的にも総構は貴重なものである。みなさんのご意見を伺いながらよい方向に持っていきたい。

小林委員：都市計画の中でも都市デザイン、景観が専門である。20 年数年以上前、総合的施策として総構を保存するため集成図を作成した際、渡辺東大教授の助手として関わったことがある。よろしくをお願いします。

瀬戸委員：幸地区の 27 区という自治会に小田原城がある。よろしくをお願いします。

福田委員：小田原城の南側にある自治会で、長い歴史のある地区である。よろしくをお願いします。

市川委員：よろしくをお願いします。

石川委員：東京で生まれ、戦後小田原に移住した。地域住民代表として、少しでも良い計画ができる

ように願っている。

立木委員：小田原の良いところを多くの人に知ってもらうことが街の活性化につながると考える。ガイド協会の会員は約 100 名、平均年齢は 73 歳。年間 2 万 5 千人～3 万人を観光案内している。その際、みなさんから様々な意見を伺っている。その意見を紹介できたらと考えている。

（関係機関の委員の自己紹介は省略）

## 2. 委員長・副委員長選出

事務局より委員長を小和田委員、副委員長を石川委員とする案が提案され、承認された。（市長再度出席）

## 3. 八幡山古郭・総構の意義について（小和田委員長）

大学に入ってから遺構を歩き始め、日本の城下町で小田原城のように城だけではなく町も囲んでいる例を調べたことがある。その調査結果を 23 歳の頃に論文「城下町囲郭（イカク）論序説」としてまとめた。

それまでの考え方として、江戸時代の学者である荻生徂徠（オギユウソライ）により、中国は城壁で囲まれた都市が数多くあり日本にはないとされてきた。さらに日本の城郭研究のパイオニアである大類伸氏（元東北大学教授）も、日本では囲郭（イカク：町を全て囲っている）の風習はないと断定していた。したがって、総構を備えた城は特殊であるとの位置づけがなされてきた。しかし、内閣文庫に所蔵されている正保の城絵図等を調べることで、総構的なものがいくつか存在していることが分かり、日本の城下町のとらえ方に新しい考え方を提示することができた。大きな城下町では姫路城、金沢城、会津若松城、秀吉時代の大阪城を検証することができた。小さな城下町は無数にあり、愛知県西尾城、愛知県犬山城、埼玉県岩槻城等があげられる。

次に北条氏による総構の構築のねらいとして、敵からの攻撃を防ぎ、城下の民衆を守るために、城下の外にまで大きな堀、土塁をつくったものと考えられる。最初はあまり大きなものではなかったが、10 数万の秀吉軍が攻めてくると予想し、防御壁を町全体をめぐるようにしてつくらせた。その結果、豊臣軍の攻撃を約 100 日間防ぐことができた。その後、豊臣軍の武将たちが注目し、全国的に総構が広がっていくのは、北条氏の総構が効果を発揮したからだと考えられる。

これらのことを裏付ける資料がいくつかあり、江戸時代に書かれた「北条五代記」では、全長 5 里（20 km、ただし実際は 9 km）総構の中に民百姓までも入れて、21 万とも 22 万とも言われている豊臣軍が攻めても約 100 日落とすことができず、開城勧告を受けて開城したと記されている。1591 年（天正 19 年）に筆者が京都に上った際の様子として京都までの城が全て総構があると書かれている。ただしオーバーでそれ以外の城も多くある。駿府城の中村一氏（カズウジ）は小田原攻めの際、総構が有効であったことから、自分が新しく城主になると総構をつくろうと試み、安倍川の自然の堤防を利用して土塁がつけられている。さらに現在は全く残っていないが、山内一豊の掛川城も正保の城絵図を見ると総構が描かれている。山内一豊も小田原城攻めに参加しているので、自分が城をつくる際に、城下町まで囲んだ総構をつくったのではないかと考えられる。

その中でも最も影響を受けたのは豊臣秀吉である。1583 年（天正 11 年）9 月～1585 年（天正 13 年）の春に大阪城の第 1 期工事（本丸）、1586～1587 年（天正 14～15 年）に第 2 期工事（二の丸）を行い、1590 年（天正 18 年）の小田原城攻め後、1594 年（文禄 3 年）から大阪城で総構の工事を

始めている。さらに、京都では御土居（オドイ）をつくっている。1591年（天正19年）の小田原合戦が終わった半年後に京都の町を土塁と堀で囲む工事を始めている。おそらく小田原の総構に影響を受けたのではないかと考えられる。その御土居（総延長22.5km）に囲まれた中が洛中で、それ以外が洛外である。

総構の構築目的として敵から身を守り民を守るものであると述べたが、江戸時代の城下町が全てそうになってよいにもかかわらず、実際にはさほど広まっていない。それは時代として戦そのものが終わりを迎えてしまったからではないかと考える。「元和偃武（ゲンナエンブ：武をやめること）」ということで、小田原合戦で北条氏が滅び戦国大名が消え、豊臣氏も徳川家康に大阪冬の陣、夏の陣で滅ぼされ、戦そのものがなくなっていった。総構は大規模な土木工事であることから資金も必要で、築城者（城主）たちは投資に見合う価値を見いだせなくなってしまったのである。

その良い例として名古屋城に関する記録として「蓬左遷府記稿（ハウサセンブキコウ）」がある。徳川家康の9男、徳川義直のために名古屋城をつくらせた際、総構も予定されていたが、大阪の陣が終わり、家康も亡くなってしまい、世の中にはもう戦はないと判断し途中でやめてしまったとの記述がある。

このようにして、平地にあった総構が消えていってしまった中、小田原の総構は山間部にあったことから、そのまま残っており、全国的にも非常に価値があると考えられる。（市長退席）

#### 4. 議題

事務局（文化財課 山口主査）による資料説明（省略）

小和田委員長：昭和51、55年に管理計画が定められているが、それから約30年が経過し、社会的状況や文化庁の方針が変化してきた。国民共有の財産として活用するという考え方が大きくなっている。さらに、これまで小田原市の努力で公有地化が進み、その公有地をどのように活用していくかが大きな課題となっている。質問、意見をお願いします。

立木委員：小田原高校のグラウンドを発掘調査し、その後どうなったのか経過を教えて欲しい。

事務局：新しい校舎の建設は神奈川県教育委員会で行っている。この遺構の重要性は県も認識し、遺構の取り扱いは県・市で協議して進めている。平成23年頃には校地整備が完了し、その後、国史跡として指定予定となっている。この地区の活用の検討も今回の重要なテーマになると考えている。

井澤主査：現在、校地整備完了後、国史跡指定のため、文化庁、市と調整中である。手続き等のスケジュールについては明らかになった時点で報告していきたい。

事務局：資料説明の補足として、委員会のスケジュール説明の中に細部を検討するために専門部会を設立すると説明したが、要綱第7条に基づいた専門部会の専門部会員として学識経験者に役割をあてさせていただきたいが、いかがでしょうか。

了承。

小笠原委員：問題点は膨大にあり2年間で解決していくのはとても大変なことである。専門部会、事務局できちんと問題点を整理していく必要があるだろう。総構は現地で実感することができるが、

八幡山は高校や住宅がありよく分からないのが現状で、分かりやすく話を提示して欲しい。どのように活用していくか、商品価値を高めて客を呼べるのかということに結びつけていく必要があるだろう。町の宝物として全国の人に見てもらおうという大目標に向かって、どのような整え方をしていくかという視点で議論していただきたい。

実際に現場をみなさんで見ることがある。現況の藪だらけのままでは観光客に対しても失礼であり、きれいにしてみせることは大原則である。公有地化されているところも部分的であるから、周辺の地権者とも話し合い、借りるなり購入するなりして思いきった策をとって欲しい。総構の景色をストーリーを持って見れるようにしたい。そのためにもざっくばらんに意見交換をしていきたい。

また、小田原高校の件については、八幡山を見学できるようにし東曲輪とも繋げるため、グランドの中を市民が見学できるようなルート設定を内々に交渉している。地元の方々にとって実感を持って進めていくことが必要だろう。

小和田委員長：主なところだけでも実際に見ることで共通理解が持てるのではないか。

小林委員：約20年前に関わって以来、懐かしく思っているが、あまり変わっていないような印象を受ける。東曲輪のような重点的なところへの対応が行われてきたことはよく分かった。これまでは守りに力が注がれたのであろうが、これからは積極的に新たな目標を持って進んでいく必要があるのではないか。史跡指定をせずに良く残っているのは、地元の方々のご理解、ご協力があったことだと思うがそれらの期待に応えるためにも、どのように活かしていくのが望ましいのか議論していく必要がある。技術だけでなく、問題意識が大切である。市の各部が委員になり、市長も出席したことも非常に重要と考える。現在、小田原市では中心市街地活性化や町のアイデンティティを高めしていくことが課題となっているが、その際には総合的観点が必要である。そのためにもレクリエーション、教育的機能、文化的機能、住宅地のプライドも含めよりよい議論ができればと考える。

また、総構を議論するにあたっては、残っているところだけでなく全体を議論してもよいのではないか。これからは物を活用するだけでなく、伝説など目に見えないものを含め、情報を発信することが重要である。

小和田委員長：現在、遺構が残っていない場所でも、お年寄りの記憶や古い写真等の古い記憶を集めることが今回の委員会の成果の一つになるのではないかと考える。

## 5. その他

事務局：第2回委員会は11月に開催予定となっている。スケジュールは再度調整させていただきたい。